

科目名	卒業研究ゼミ 2 (卒業必修)		
授業形態	演習	学年	2
開講時期	2023 年度 前期～後期	単位数	2
担当教員	平澤 賢一		
内容および計画	<p>卒業研究を進めるための指導を行う。</p> <p>【内容】 現代企業が直面するマネジメントに関する諸問題について、ゼミ生の関心や問題意識を尊重し、学生自らが卒業研究テーマを設定して卒業研究を進める（グループ研究でもよい）。</p> <p>【計画】 1. 今後の活動については、学生の意向も踏まえて目標を設定し、それに伴って計画、実行して行く。 以下、(1)～(6)をPDCAに従って確認の上で、ゼミ生が自主的に進めて行く。</p> <p>(1) 卒研発表会までの計画立案 ・研究テーマに基づいて研究計画を立て、それに従った学習・調査（文献調査、フィールド調査）を実施する。</p> <p>(2) 文献検索の「やみくも」「いもづる」読みを通じ、先行研究を検索</p> <p>(3) マネジメントに関する図書・論文・雑誌の輪読</p> <p>(4) 企業等への実態調査</p> <p>(5) 都内他で開催される講演会・シンポジウム・企業イベントへの参加（希望者のみ。オンライン参加も含む）</p> <p>(6) 中間報告会、卒研報告会へ向けての卒研要旨作成 ・卒研発表会においてプレゼンテーションを行い、最終的に卒業研究をペーパーにまとめる ※過去の卒業研究については、本学 Web サイトと卒研ゼミ 1 のシラバスを参照のこと。</p>		
1	<p>以下 (1)～(6) の進捗度を PDCA に従って毎回のゼミで確認の上で、ゼミ生が自主的に進めて行く。 なお、実態調査は進捗度等に応じて実施をする。</p> <p>(1) 卒研発表会までの計画立案</p> <p>(2) 文献検索の「やみくも」「いもづる」読みを通じ、先行研究を検索</p> <p>(3) マネジメントに関する図書・論文・雑誌の輪読</p> <p>(4) 企業等への実態調査</p> <p>(5) 都内他で開催される講演会・シンポジウム・企業イベントへの参加（希望者のみ。オンライン参加も含む）</p> <p>(6) 中間報告会、卒研報告会へ向けての卒研要旨作成</p>		
2	<p>【実態調査のこと】 卒業研究では、企業の実態を見聞するために実態調査を実施する。 机上論に留まることないように活動し、学んだことは最終的にペーパー（○▲□）にまとめていく。 ・従来の卒研では、企業・商店・研究施設・研究者・卒業生の皆様にはアンケートやインタビュー調査にご協力いただいた事例がある ・会津若松市内に限らず、都内・横浜市・福島市・仙台市・石巻市・京都市・大阪市等にも赴き、企業等へのインタビュー調査を実施した。また、遠征先において、各種セミナーへの参加や他大学との合同ゼミを通じて見聞を広げる機会を得た事例もある</p>		
3	<p>以下 (1)～(6) の進捗度を PDCA に従って毎回のゼミで確認の上で、ゼミ生が自主的に進めて行く。 なお、実態調査は進捗度等に応じて実施をする。</p> <p>(1) 卒研発表会までの計画立案</p> <p>(2) 文献検索の「やみくも」「いもづる」読みを通じ、先行研究を検索</p> <p>(3) マネジメントに関する図書・論文・雑誌の輪読</p> <p>(4) 企業等への実態調査</p> <p>(5) 都内他で開催される講演会・シンポジウム・企業イベントへの参加（希望者のみ。オンライン参加も含む）</p> <p>(6) 中間報告会、卒研報告会へ向けての卒研要旨作成</p>		
4	以下、30 回まで同上		
5			
6			
7			
8			

9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	

30 **【○▲□ 卒業論文作成について】**
 なお、卒業研究を進めるにあたり、企業等の皆様にインタビュー調査・質問票調査でお世話になった場合には、卒業論文を作成し、御礼状とともに（卒論を）お届けすることを義務付ける。ゼミ生は、卒業研究の調査等でお世話になった方々は、卒論完成を期待しておられることを念頭に取組まなければならない。
 本学科の卒業要件は「卒研要旨」の完成にあり、「卒業論文」の作成は求められていない。しかし、ご多忙のところ、卒業研究の調査にご協力戴いた皆様への感謝の念を忘れてはならない。

教科書				
タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、参考書は特に指定しないが、卒業研究をまとめる過程で多数の図書や資料に接することとなる。 ・ゼミで称する図書の「風通し」作業は卒業研究の前提である。
------------	---

成績評価	
評価方法	割合(%)
以下1) 2) を総合的に判断する：	100
1) ゼミ活動：①学習態度、②討論への貢献度、③報告内容の向上度合	
2) 卒業研究：①卒論本体と卒研要旨を提出期限までに完成、②卒研発表会で発表	

学習到達目標	<p>一、「唯一の解」や「〇×式の答」を教えてもらおうとするのではなく、「学び方を学ぶ」ことが重要だという点を意識して実践できるようになること。</p> <p>具体的には、以下の二点を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた問題の解を出すばかりではなく、自ら問題を設定してその解を導き出すことができる ・世の中の多くの課題には、唯一絶対の正解がある訳ではなく、複数の解があり得ることを知った上で考動することができる <p>一、本学、本ゼミの卒業生として、社会に出して恥ずかしくない最低限の論理的思考や、マナーを備えた「新人ビジネスパーソン」となること。</p>
先修条件	<p>卒業研究ゼミ1を履修済みであること。</p> <p>卒業研究のテーマによっては、企業等にインタビュー調査をすることがある。ビジネス・パーソン予備軍として、訪問の前後も含めてのマナーに気を付けられるように精進を重ねて戴きたい。</p>
実務経験	<p>実務経験有り：外資系企業（米銀・コンサルティングファーム）にて、現業部門管理者としての実務経験を有する。実務経験からの知見も交えて演習指導を行う。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「愉快地に、されど真摯に」研究することをゼミのモットーとしたい ・机上論に留まることなく知的好奇心を旺盛に持とう（A desk is a dangerous place from which to watch the world.） ・自主性・積極性・旺盛な好奇心を大いに期待する ・研究室においては何者も平等であり、議論は自由にすること。しかし、人間修行の場であることも忘れてないで欲しい。 ・また、自分が短大に進学して勉強ができる環境にいられることの有難さ、短大で学んでいることの意義をじっくりと考えてもらいたい